



阿波の国保

=Topics=

- 国保制度改善強化全国大会
- 徳島県市町村国保運営協議会会長連絡協議会
- 徳島県国保診療施設地域医療学会



<<別添>>

- 数字で見る国保医療費の動き(令和5年9月～令和5年11月審査分)
- 国保連合会日誌 (令和5年11月1日～令和6年1月31日)

国保の持続的な制度運営確立のため12項目を決議

—国保制度改善強化全国大会—

令和5年11月13日、東京都千代田区の砂防会館にて、国保中央会主催の国保制度改善強化全国大会が開催され、徳島県からも町長をはじめ10人が出席しました。

国保中央会の岡崎 誠也 会長(高知市長)は主催者挨拶のなかで、平成30年から施行された国民健康保険の都道府県単位化について触れ「これまで順調に運営されているが、今後ますます少子高齢化が進む中で、医療費の更なる増加や、低所得者の増加といった構造的な問題は依然として続いている。さらに、昨今の物価上昇の影響などもあり、国保の事業運営は今後も厳しい状況が続くことが見込まれる」と所見を述べた上で、国保制度を将来にわたって持続可能なものとしていくためには、国においても重要な責任を果たすことが強く求められるとし「新たな国保制度を安定的に運営するための大前提となる毎年度3400億円の公費の投入を今後も確実に実施していただくことを強く要請する」と訴えました。

また、政府の「骨太の方針2023」において検討が進められている生活保護受給者の国保加入の議論については「国保財政を著しく悪化させる恐れがあることから一貫して反対する」と強調しました。

続けて、来賓として武見 敬三 厚生労働相(塩崎 彰久 厚生労働大臣政務官 代読)、鈴木 淳司 総務相(船橋 利実 総務大臣政務官 代読)が挨拶しました。

大会では、国保中央会の田島 健一 副会長(佐賀県白石町長)が決議案を読み上げ、医療保険制度一本化の早期実現や、公費投入を確実に実施し、財政支援の充実を図ることなど、12項目の決議が満場一致で採択されました。

大会終了後、決議の早期実現に向け、出席者による関係省庁や国会議員等への陳情を行いました。

《大会決議》

- 一、医療保険制度の一本化を早期に実現すること。
- 一、国保の財政基盤強化のための公費投入の確保を確実に実施するとともに、保険者努力支援制度等が有効に活用されるよう、適切な評価と財政支援の充実を図ること。
- 一、普通調整交付金が担う自治体間の所得調整機能を今後も堅持するとともに、生活保護受給者の国保等への加入の議論については、見直しを行わず国としての責任を果たすこと。
- 一、医療・保健・介護人材の確保や地域偏在の解消のため必要な措置を講じるとともに、公立病院等の医療提供体制を確保するため、十分な支援策を講じること。
- 一、こどもの医療費助成等の地方単独事業に係る国庫負担減額調整措置を早期に全廃するとともに、こどもの医療費助成に係る全国一律の制度の創設及びこどもに係る均等割保険料(税)の軽減制度の拡充を行うこと。
- 一、こども・子育て政策強化の財源の一環とされている支援金制度(仮称)の検討に当たっては、国保の運営に支障を及ぼすことがないように十分配慮すること。
- 一、国保総合システムは、国保運営の基幹システムであり、その開発や運用に当たっては、市村等保険者に追加的な財政負担が生じないように、国の責任において必要な財政措置を確実に講じること。
- 一、国保連合会のシステム開発や運用の財源を確保するため、ICT 積立資産の積立上限の引き上げ等、現行の運用ルールの見直しを行うこと。
- 一、国保連合会が地方自治体の医療・保健・介護・福祉業務支援の役割を十分に果たせるよう、必要な措置を講じること。
- 一、国民の健康保持・増進及び医療費適正化に向けKDBシステムの更なる活用を進めるため、制度的役割の拡充を図るとともにシステム更改等に係る財政措置を講じること。
- 一、医療 DX の取組を強力に推進し、マイナンバーカードと健康保険証の一体化に当たっては、国民や保険者等に対し、十分な周知や情報提供を行うなど国の責任において万全の措置を講じること。
- 一、国民健康保険組合の健全な運営を確保すること。

国保をめぐる情勢、課題について学ぶ

—令和5年度徳島県市町村国保運営協議会会長連絡協議会—

令和6年1月17日、徳島市の徳島グランヴィリオホテルにて徳島県市町村国民健康保険運営協議会会長連絡協議会を開催し、各市町村の国民健康保険運営協議会会長、委員並びに国保関係者等16保険者26人が出席しました。

この協議会は、会長相互の連絡調整を行うとともに、国保事業の発展に寄与するため、国保をめぐる諸情勢や課題等の共通認識を図ることを目的に実施しています。

はじめに、稲田 米昭 会長の主催者挨拶と、徳島県保健福祉部国保・地域共生課 橋本 晋作 国保運営担当室長の来賓挨拶がありました。

続いて、徳島県保健福祉部 国保・地域共生課 片岡 佑介 主査兼係長、中田 華奈 係長 から「徳島県国民健康保険運営方針・医療費適正化計画の改定について」と題し、来年度改定する徳島県国民健康保険運営方針と医療費適正化計画について講演がありました。

その後、国民健康保険中央会 池田 俊明 常務理事 から「国民健康保険を取り巻く情勢と今後の課題」と題し、制度改革やオンライン資格確認と医療DXの状況、国保連合会・国保中央会が直面する課題などについて講演がありました。



第45回徳島県国保診療施設地域医療学会

～ どうする？医療従事者不足～国保直診の危機～

令和5年11月26日、徳島県国保会館にて「どうする？医療従事者不足～国保直診の危機～」をテーマに第45回徳島県国民健康保険診療施設地域医療学会をハイブリッド方式で開催しました。この学会は地域医療及び地域包括医療・ケアの実践の方途を探求するとともに相互理解と研鑽を図ることを目的として毎年開催されているもので、今年は国保診療施設関係者等129人(WEB参加者含む)が出席しました。



▲開会式の様子

開会式

開会式では、主催者として徳島県国保診療施設運営協議会の影治 信良 会長(美波町長)、全国国保診療施設協議会徳島県協議会の須藤 泰史 会長(つるぎ町病院事業管理者)から、来賓として徳島県の後藤田 正純 知事(国保・地域共生課 橋本 晋作 国保運営担当室長 代読)、徳島県国民健康保険団体連合会の内藤 佐和子理事長(宮内 正彦 常務理事 代読)からそれぞれ挨拶がありました。



▲挨拶をする影治会長

表彰式

開会式に続いて、国保診療施設事業の向上発展に功績があった者を表彰する徳島県国民健康保険診療施設運営協議会会長表彰の表彰式が執り行われ、影治会長から表彰状と記念品が手渡されました。表彰された方は次のとおりです。



▲表彰式の様子

徳島県国民健康保険診療施設運営協議会会長表彰

三好市国民健康保険市立三野病院	主任看護師	細川 民江
つるぎ町立半田病院	病院長	中園 雅彦
つるぎ町立半田病院	副院長	土肥 直子
つるぎ町立半田病院	診療部長	河野 誠也
つるぎ町立半田病院	看護師長	田邊 佳子
つるぎ町立半田病院	看護主任	松浦 良里子
つるぎ町立半田病院	看護師	小倉 三枝
つるぎ町立半田病院	看護師	谷 玲子
つるぎ町立半田病院	看護師	真鍋 友紀
つるぎ町立半田病院	事務長	丸笹 寿也
つるぎ町立半田病院	医事課長	大谷 健二郎
美波町国民健康保険美波病院	看護師長	尾崎 美紀
美波町国民健康保険美波病院	看護師	清原 順子
美波町国民健康保険美波病院	管理栄養士	中崎 真理

演 題 「経営危機からの脱却 — 国保直診の矜持 — 」

講 師 雲南市病院事業管理者 大谷 順

司会者 全国国民健康保険診療施設協議会徳島県協議会 会長 須藤 泰史

雲南市 大谷 順 病院事業管理者を講師に「経営危機からの脱却—国保直診の矜持—」と題した特別講演を行いました。

16年前、バブル崩壊を機に経営の危機に瀕した「島根県雲南市立病院」が経営危機を脱却するまでの過程や、国保直診の役割について講演いただきました。

【 講 演 概 要 】

島根県の雲南市立病院は、バブル崩壊後の平成 14 年の診療報酬の大幅引き下げや平成16年の臨床医研修制度の制度化等が病院経営への大きな打撃となり、常勤医師数が減り続け、平成19年には地元新聞から「経営危機」を大々的に報道された。

報道の2年前に帰郷した大谷講師は、人材確保のための育成センター事業の開始、病院機能の見直しとしての地域総合診療科・地域ケア科の創設、地域での危機感の共有を目的とした出前講座・市民団体等との連携の実施等により、経営危機からの脱却を図り、平成24年には経常収支の黒字化を達成した。また、平成30年には病院の建て替えも実現した。

雲南市立病院は地域住民の力強い応援もあり、職員一丸となった取り組みの成果が今出てきている。国保直診として、これからも地域とともに歩む病院であり続けたい。

パネルディスカッション



「どうする？医療従事者不足～国保直診の危機～」をテーマに、司会者を勝浦町野上 武典 町長、助言者を雲南市 大谷 順 病院事業管理者、徳島県国民健康保険診療施設運営協議会 顧問 北畑 洋 徳島県病院事業管理者とし、5人のパネリストがそれぞれ発表を行った後、出席者を含めて全体で意見交換しました。

パネリスト	発表内容
美波町国民健康保険美波病院長 本田 壮一	美波町国保直診の危機を乗り越える
つるぎ町立半田病院長 中園 雅彦	つるぎ町立半田病院の医療従事者確保の状況
国民健康保険勝浦病院 看護師長 栗飯原 明美	定年延長制度開始に向けて アンケート調査から見てきた今後の課題
那賀町立上那賀病院 看護師長 吉岡 栄子	存続の岐路に立つ過疎地域の医療機関 医療従事者不足解消に向けた看護部門の取り組み
海陽町国民健康保険海南病院 事務長 川野 和彦	田舎の病院で働きたいと思える病院であるために

研究発表

研究発表は2部に分け、I部の座長を那賀町立上那賀病院 花田 健太 院長、II部の座長をつるぎ町立半田病院 黄田 千佳 看護次長とし、各施設から医師部門1題、技師部門3題、看護部門2題、事務部門1題、薬剤師部門1題の計8題について日頃の実践をととした発表がありました。

I部 座長 那賀町立上那賀病院長 花田 健太		
部門	発表者	発表内容
医師部門	国民健康保険上勝町診療所長 幸田 朋也	上勝町診療所の診療業務について ～コロナ感染症流行前後を比較して～
技師部門	つるぎ町立半田病院 検査技師 山田 佳美	当院の健診医療に対する 臨床検査技師としての関わり方と課題
技師部門	つるぎ町立半田病院 診療放射線技師 西尾 裕平	骨密度測定機能を搭載した X線透視撮影装置の導入
事務部門	海陽町国民健康保険海南病院 看護師長 石部 ひとみ	第5回地方創生医師団シンポジウムを開催して

II部 座長 つるぎ町立半田病院 看護次長 黄田 千佳		
部門	発表者	発表内容
薬剤師部門	国民健康保険勝浦病院 薬局長 正瑞 嘉久	勝浦町での学校薬剤師の職務紹介
看護部門	つるぎ町立半田病院 看護師 佐藤 紗緒理	新人看護職員年間研修を立ち上げて
看護部門	三好市国民健康保険市立三野病院 主任看護師 細川 民江	「重度、医療・看護必要度」評価者の 創傷・褥瘡処置記録統一化を目指して
技師部門	三好市国民健康保険市立三野病院 主任臨床検査技師 上笹 美佳	イムノクロマト法で陽性反応を示した 1症例について



<<別添PDF>>

数字で見る国保医療費の動き（令和5年9月～令和5年11月審査分）

国保連合会日誌（令和5年11月1日～令和6年1月31日）

